

いきいき広場

実践空手道武心会

9月17日、角館武道館で実践空手道武心会の練習を見学させて頂きました。幼児から小学生の方々20数名で黄色い声も飛び交い、気合の入った稽古でした。

師範の湯澤浩一さんからお話を伺いました。

武心会は2003年7月5日に発足しました。

現在は角館・大曲・横手・大館・鹿角・二ツ井に道場があり、角館本部道場では50名の道場生が汗を流しています。

稽古は大きく分けるとジュニアクラス（幼児〜小学生）と一般クラス（中学・高校・社会人）に分かれており、4才から50才台の道場生が稽古に励んでいます。

例年であれば、様々な大会にも積極的に参加しており、東北大会で優勝し、全国大会に出場する選手もいるのです。

が、今年はコロナウイルスの影響で各種大会が軒並み中止となってしまいました。

しかし、武心会空手では昇級審査会を通じて自身の成長を確認できる機会を設けており、帯の色が上がることで、個々の自信にもつながっています。

「大事なことは目標を設定し達成する日までのように稽古をするか、どのように努力するかだと思います。日々の稽古を通して、このコロナ禍に負けない、何事も決して諦めず、前へ前へと戦い続ける人間的な強さや優しさを養うよう指導していきたいです。」

師範の実直な人柄が伺える話であり何より礼儀正しい子供たちから元気を頂いた出会いでありました。

（八柳良太郎記）



■押忍 元気な角館道場生



■小学校低学年の基本稽古

お知らせ おでかけ市議会の 休止について

「おでかけ市議会」は新型コロナウイルス感染防止の観点から、12月末まで開催を休止しておりますのでご了承願います。

●お問合せ先…仙北市議会事務局 TEL0187-43-0334

編集後記

新角館庁舎の建設工事も順調に進み間もなく完成を迎えております。

9月定例会では、新角館庁舎の12月開庁に合わせた組織再編について、熱い議論が交わされました。町村合併以来、初めて仙北市の事業部門が一つの庁舎にまとまるこの機会に、組織を再編することで、これからのウイズコロナ時代と人口減少社会を見据えた、新しい、そして効率的な仙北市の行政サービスを大いに期待します。

市議会も、新角館庁舎の開庁を機に、コロナ禍により、これまでの常識が通用しない新たな時代の到来に対応できるよう、柔軟な思考とスピード感のあるフットワークに磨きをかけなければなりません。そして、常に、その言動は『市民を幸福にすることに繋がるのか?』を第一に考えて、日々行動していきたいと強く思う今日この頃であります。

（高橋輝彦記）